

報道関係者向け現地調査

目的：県内農業の現状や関連施策などについて、実際に現場をみることで理解を深めてもらい、得た知見や課題を情報の発信につなげることで、国民の農業に対する理解と関心を醸成する

○ 施策分類

広報

○ きっかけ・背景、課題の把握

平成16年度からの関東農政局の取組「各都県における報道関係者とのコミュニケーションの促進」を端緒に、毎年継続した現地調査を実施（今回で21回目）

○ 取組の内容

群馬県の特産品であるこんにゃくいもは、気象や病害の影響を受けやすいため、収穫量や価格の年次変動が大きい。近年は需要の減少に伴い、精粉の在庫量が増加傾向で推移し生いも価格は急落している。一方、それらの解決に向けて、県や研究機関、産地では将来においても基幹作物として生産を続けていくための様々な取組を行っている。当拠点では「それでも、コンニャクをあきらめない」をテーマとして、こんにゃくいもの研究、生産、開発などにフォーカスし、3カ所を選定し現地調査を行った。

○ 効果・成果、今後の方向性

調査後、新聞やTVなどでこんにゃくの現状について報道された。参加者へのアンケート結果から、“こんにゃくに関する最新研究を聞き貴重な機会だった”“生産者の本音を聞いた”“商品開発力に期待が持てる”など、現地調査に対する評価の高い声をいただいた。今後も現地調査を通じ当拠点との関係強化を図るとともに、情報発信につなげていきたいと考えている。



体制図

